

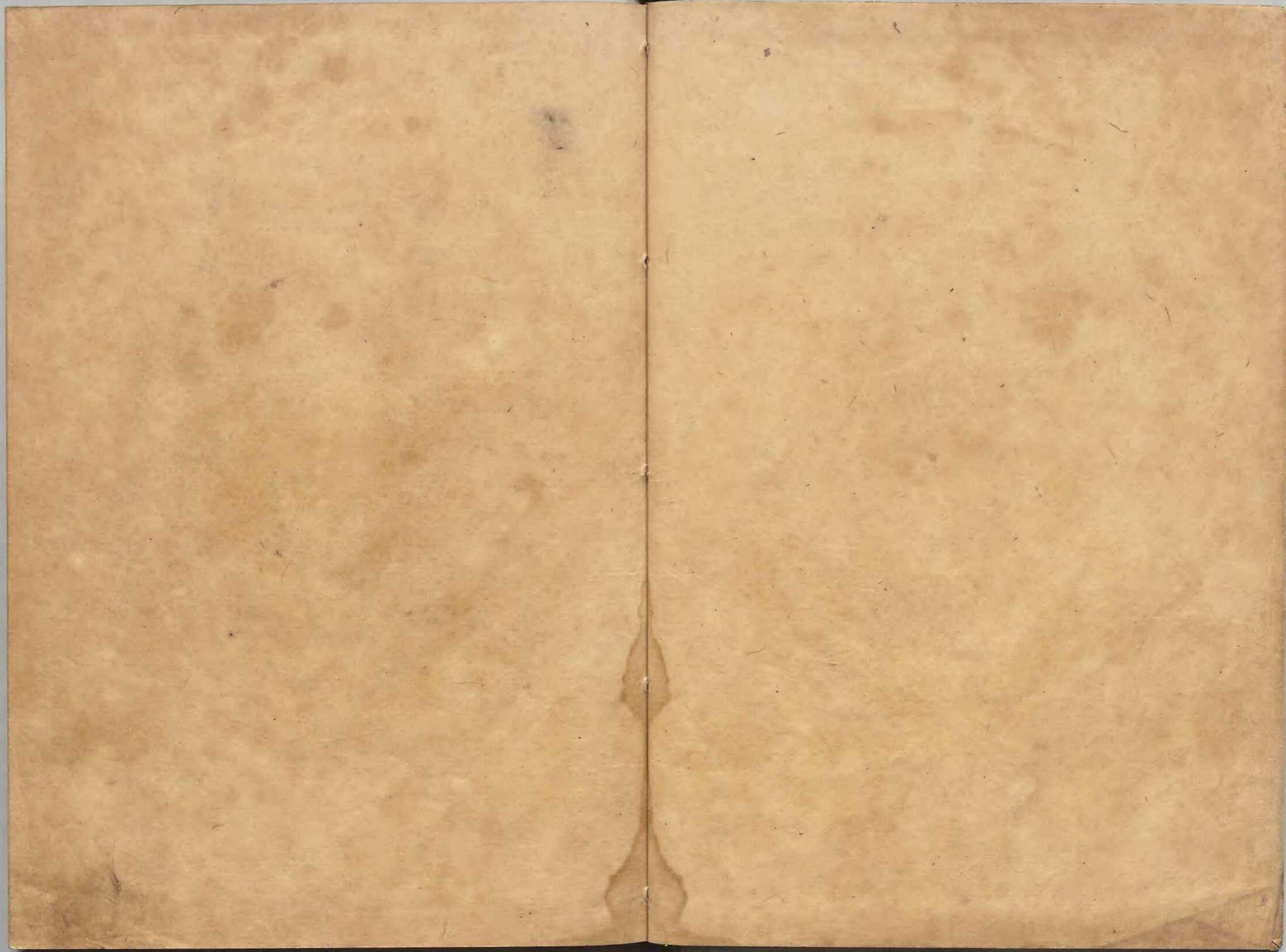
寛永諸家譜

惟宗氏
宮道氏
弓削氏

賀茂氏
高階氏

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186(169)	
函號	特 76	1





惟宗姓

賀茂姓

神保

久永

文道姓

高階姓

蜷川

志村

弓削姓

平岩

寛永徳家系傳

惟宗姓

神保

今按より一畠山一あ家乃氏

あり一人を遊佐友原氏なり一人を

神保惟宗氏なりと神保宗右衛門

長祓畠山政長一はふ徳仁文昭

乃間細川と山名と雄とあり

政長細川一属より長祓とあり

浅草文庫

己しとあけく〜
 ね園とよとひく
 き〜ひ大〜
 蓮池類といふ山名、其やかれ細川
 権と〜ら〜ら〜ら神保能也と
 いふのらりと武野乃外こせり
 歌道〜達〜
 惟宗氏弘といふものあり則
 能也なる也
 家傳〜い〜
 神保氏いふ

十二世〜い〜
 時家系焼失と故〜十一世
 藤原下〜れと〜す先祖世
 鎌倉〜居位と〜ら昌山
 河内守國清同才尾張守藤原
 房〜海陽〜い〜

● 義政 よしまさ

義九郎 よしくん

生員越中 なまこし

和州河本合戦 わすけがもとあひざり 一から死 いちからし

則茂 のりしげ

次郎 つぐ

神保家乃系譜 かみたねのけいぶ けいぶに

焼失 やきしつ 和州高尾合戦 わすけたかおあひざり 一から死 いちからし

義勝 よしかつ

三河守 みつかわり

二十七歳 にじゅうしちさい 一から病死 いちからびやうし

義定 よしさだ

右衛門尉 ゑもんゑい

河内由良光合戦 かんのゆらみつあひざり 一から死 いちからし

春茂 はるしげ

式部大輔 しきぶのいしよ

神保氏代昌山氏一属と信長 かみかみ だいく ちやうけ ちやうざう ぞう しのぶ

乃代一と昌山の家臣遊 のしろ ひと ちやうざう の けしん ぶ

依藤叛と山 よどう はん と やま

氏没落一と神保氏紀利 うぢ ぼつらく ひと かみかみ けり

幽后と秀吉乃代一と ゆうこう と ひでよし のしろ ひと と

善茂と ぜんしげ と

和剛 わごう

とひく とひく

相茂 あいにしげ

長之郎 ながのらう

享長五年京勝 きやうちやうごねん けいさつ

とひく とひく

東照大権現 とうしやうだいけんげん

伏在 ふくざい

開尔沙陣 かいにしかじん

高名ありとおもふ名の中よ
と首とら車丸
大坂陣五月六日める色に
とひく首九とせぬ
同方乃合戦一階下の名
りあ夜の懸合と二十歳
しとら死よころと死騎馬
之十二人并難共すくと二百九十
之人うら死よ

義安

大坂

五歳

大指現り得

のきと相飲

作す

る乃ち

右法院殿とよひ

おききおしりしききききき

おききおしりしききききき
おききおしりしききききき

氏張

祢保

安藝守

生國越中砺波郡

守山志

城一伯也

天正元年浪人となりて肥後國熊本

一居也

同十七年淡路山くりもされ

氏長

大権現一はく人考てまづり下総國
とひく二千石乃地とこま
奥州開原陣此時約命とら
考まづりて江戸湯島主居者
文禄元年八月五日江戸とひく死
也一六十五 法名玄的居士

奥州湯野

生國岡

氏勝

奥州開原此法陣一はく
大坂御陣一はく
元和元年江戸一はく
右法院教はく人考てまづり
寛永二年四月五日五十一歳とひく死
法名宗英居士

奥州湯野

生國武蔵江戸

右徳院殿よりはし人ききくまらる氏長死
してのち二千石の内五百石をもち
弟市重よりこれとわぶ
寛永十七年卯申よきひく死す
わし甲申と法名宗繁居士

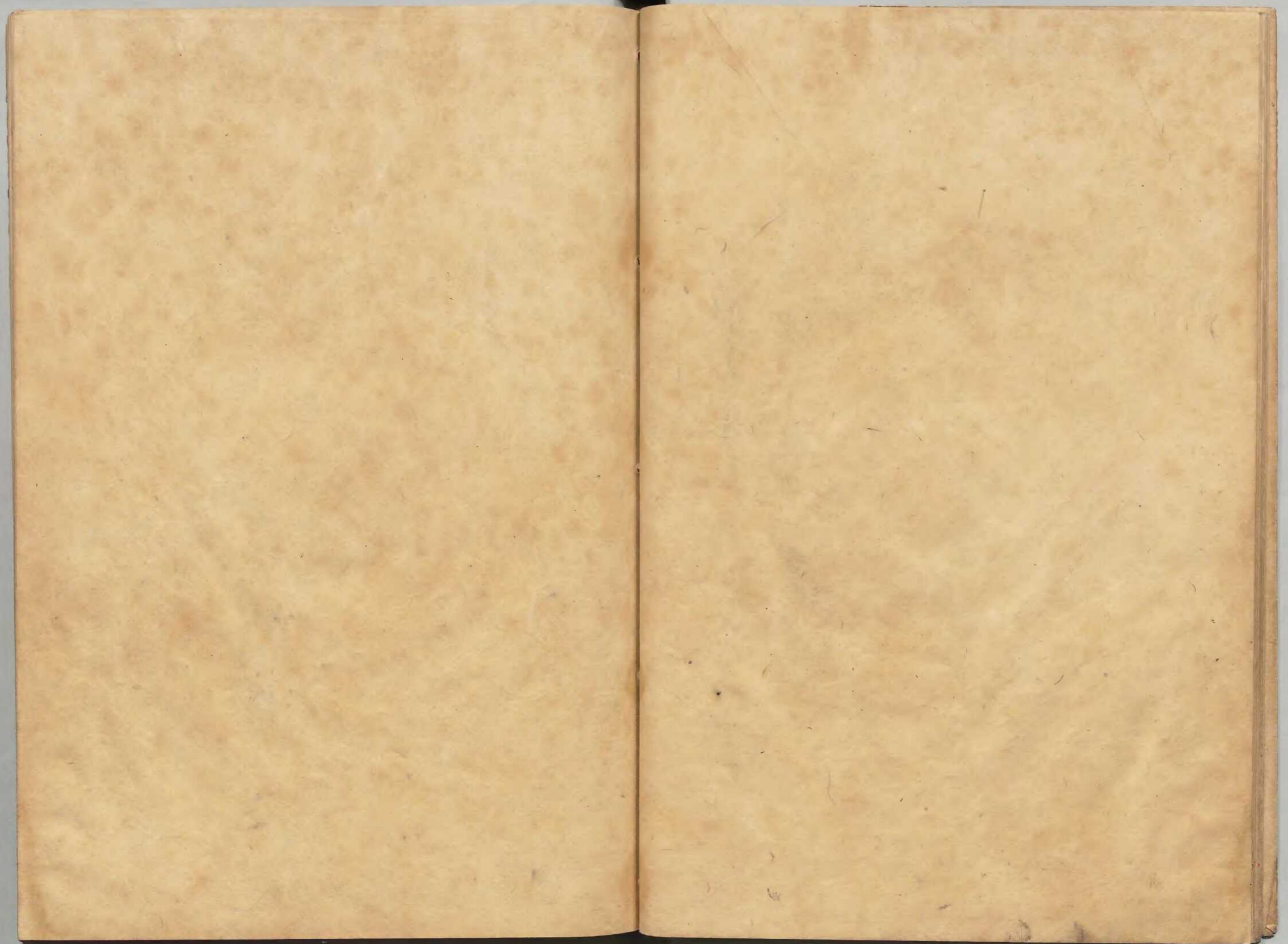
氏信

市重の生國は
兄氏勝喜子として家督とす

寛永十八年

將軍家よりはし人ききくまらる

家乃級園のちらに二川



● 具

神保

山城やましろ 生國越中なまのくに
 越中えちう 乙州おつしゅう 甲賀かへ 山南やまなん 乃の 所ところ
 上かみ 領りやう 氏うぢ 法名ほふな 武彦むぢく

系

彈正忠 生必近江 領地回あ

系

八郎 乃ち周防守と号す生國回あ
領地と一なる

系

八郎 乃ち小對馬守と号す生必回あ
信長 江州教向此とこ 甲賀志法
信長 一とこ 一とこ 一とこ
見山 一とこ 一とこ 一とこ
信長 一とこ 一とこ 一とこ
甲賀郡 廿一 家々對馬
も一とこ 一とこ 一とこ 一とこ

改長

八郎乃ちらに世を承つとありしに

大権現より法入をまゝにまらる

慶長三年十一月十六日甲寅

よひに死すに六十八

浄土院と号す世系にのこるに

いづれに焼失に

長利

八郎乃ちらに八郎を承つとありしに

喜本本之七郎とよみの喜本が系進

とありし仇ありとこれとありしに

すげとよき長利本之七郎は系進

江州勢ありしよひにた系進と

いづれにありしに

大権現乃ち浄土院とありしに

一、いひし山田系一、位は
尊長立子用系、清陣乃とこ
約命とく、ゆりまゝに位を
同年十一月甲寅、郡一、とひく
領地とこまふ
元和四年正月九日甲寅一、と
ひく病死、せう一、五十二
法名、淨善

重利

らる若菜 生必相控小田系
大坂清陣のこまゝに
大指現一、まみえまゝに
すかゝら大坂一、位なるのち
駿府一、居位と
大指現、薨清のち
右、徳院殿よつと、まゝに

松平石見守一ノ属志々大妻を
はとむ父長利死一ノ乃ら家督
とつこ河部播磨守組ノ属也
寛永元年九月より

お軍家一ノ流ノ者ニモ
同年十二月湯切来とく人給ふ
同二年日光社系ノとこ道中
宿割と相合せつげら系
同三年三月小十人組ノ以とる事

武州古色毎乃庄中村一と
く二百名乃地とく人者
同年湯上流一ノ信也
同六年布衣と恙より事とゆ系
河部

同十年五百名ノ地とく人者
又湯切来百俵と領地一ノ
六百名江州志賀郡小松村志野
村一とゆ相領と領合五百名

なる

長政 ながまさ

沐葉

元和二年乃甚

大権現大権現一湯湯一一きくきく

同三年

白瀧院殿白瀧院殿一一流流人人きくきく

寛永九年より

將軍家將軍家一一流流人人きくきく

政利 まさとし

只郎只郎志志生生玉玉江江甲甲賀賀郡郡

寛永六年

白瀧院殿白瀧院殿一一湯湯一一きくきく

同九年より同九年より本本多多義義作作吉吉継継一一屋屋

一一湯湯家家ととつつととああ領領地地ととまま

小

重時

源五郎為 生玉武藏印

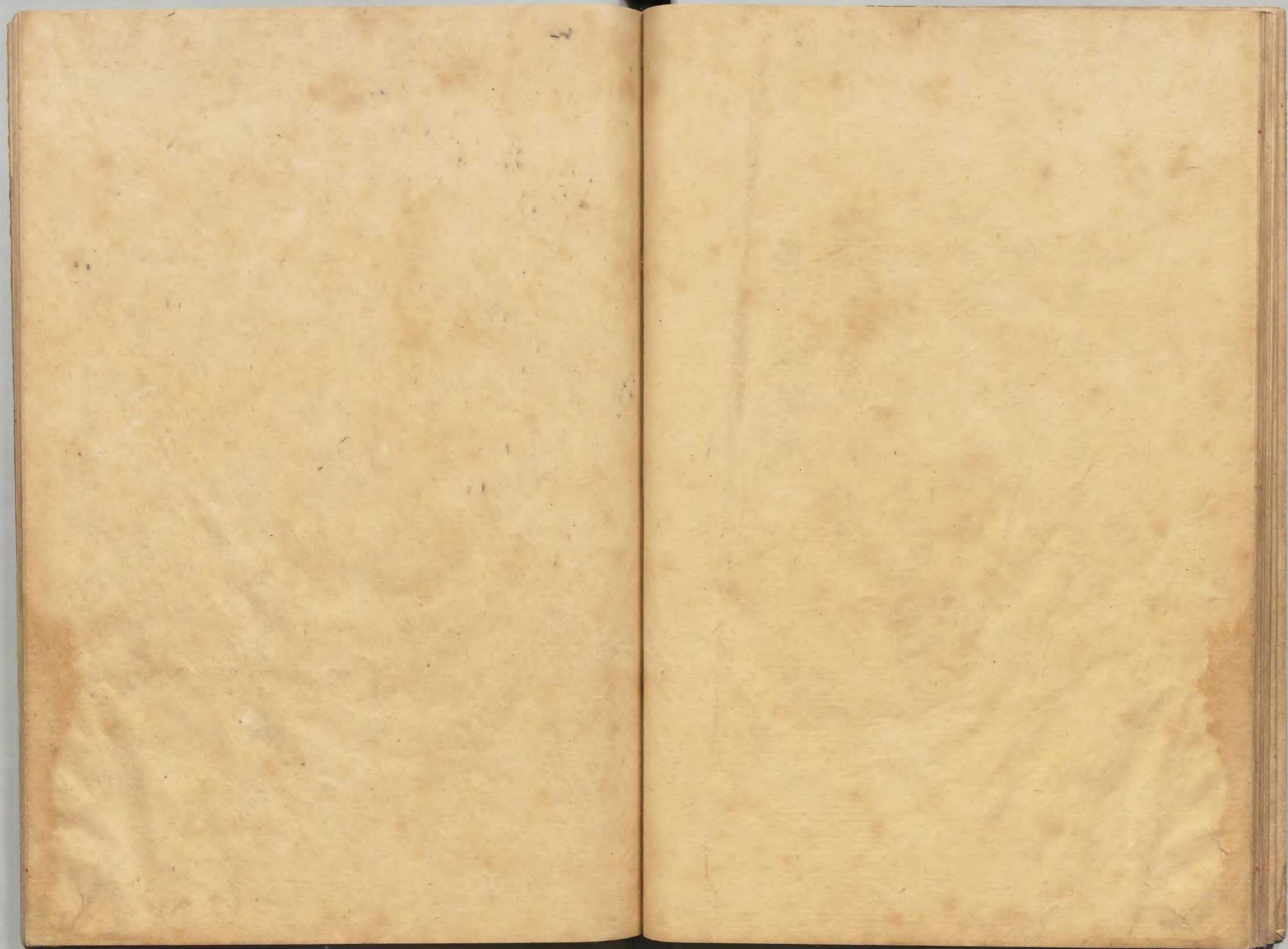
寛永六年十二月二十七日

將軍家一湯一之

同十年より大久保氏に先継

所一湯毒とつとむ

家乃紋被簾



● 定家さだけ

神保かみかみ

甲斐かい 生國常陸なまくに ぬし

宇治うじ 文治ぶんじ 壬午みづのえ 八月やうがつ 廿二にじふに 日ひ 病やまひ 死し すす 中なかつ
地ち 子こ 飲のみ ずす

孝長たかなが 四年しよんねん 一いち 病やまひ 死し すす 中なかつ

七しち 十じゆ 二に 法名ほふな 道長みちなが

定宗

職部 生國下野

宇都文保之節よつふ承らる所領と没
收せしむる乃ち浪人となり

享長七年女御依渡すと先帝とて

大権現より法入をせしむる領地と

ま

大権現薨逝のち

右権院殿よ法入をせしむる

寛永四年十一月一病死す

六十七 法名浄盛

定好

若大進 生國同

実為神保勅右郎の子なりと親族より

とありて定宗の皇子とありて建仁を

継て

台漣院殿とよむ

將軍家一統人々々々々々

家乃紋之右巴

賀茂姓

姓尸録といく大國之神乃ほなり

大田神古命乃孫大賀於美命賀茂

乃神社とあめきくまらつ子孫

世とあめとまら

今按もりし賀茂乃系圖古傳

小黒磨と祖とと世賀茂氏なり

博古とあめ仁玉乃志希なり

久永いさなが

石州久永乃唐ノ位也乃故久永と
号すも一は久永ノ先祖也今
人と云ふ事と云ふ事

●
重吉しげよし

源六 生玉石見久永唐
先祖代々石州一任も後之州

后と稱一法康君 廣之
法久者一法久一法久一法久
戦功あり

信重のぶしげ

源太清一 生玉三河
廣之一法久一法久一法久
のらねかせ一もらねかせ
一法久一法久一法久一法久
病死 法名經圓

とひく加増二百石と下る

同十八年秀吉小田原と征する

佐守

同十九年奥州小陣と佐守

文禄元年三月秀吉朝鮮と征す

る

大指現ししをきくまらう肥州

松浦郡名護屋よつとささり

重勝浪鞘乃刀とささり

大指現しし湯しきくまらう

伊感乃ありしと長頼之百俵とさ

し

享長五年乙酉三成謀叛とくも

くいりし使名と決りし重勝

と金津しりむしむ

大指現法ゆと率く奥州系勝を

征せんゆと七月野州小山

山あるのさ重勝も佐守とす

之成法孫乃告あり

大指現法ゆとり一儀一室

奥州と一と一之成と先

殊せんや一是より出ると將

進教のり主勝位なり

浪州用系一主

同八多 台命と一ゆり

台法院殿一一人きそま川系

は年武州児玉郡穴師村

とひく加増五百五十二とを海より
ろ乃ち地と一と野下
野下陸の内一と一都
又千百餘と一は内二千と
騎る同心十人足輕五十人乃知
たり

同十六年八月考陸王下野國

急黨ふく一蟻起すけ時服部中

細井合景兼主勝 約命と加

柳りく吉州野州よおし
越黨亦追捕あしじしと
ゆしと通し
物とじまぶといよくか
服部細井勇と振ひにねと追討
す重勝のくわ乃業内名と用
山林谷こよかぐるゝ越黨
后所と搜索せく數十人と討捕
重勝の郎等越黨二人といあさり

服部細井久永等しくく越黨
誅し小山平加藤新田等九十
ヶ所しから首とさりく
同十九年大坂陣し
白旗院殿乃侍を旗本乃先列
あしと和睦あつし乃ち松堀を
埋じふを乃列よくし
あしと海の上のときも侍の敷
くしと旗本乃先列し

曰二年二子不^レ加増ありて七千
百餘石と^レ_レす

寛永六年八月七日^一死す
也^一七十六法名^一經心

重知

源光^一 生國^一武^一苑

尊^一長十六^一多^一し^一め^一

大権^一現^一と^一よ^一ひ

白漣院^一殿^一一^一湯^一一^一き^一く^一も^一ひ^一ふ

け^一時^一重^一知^一十^一三^一歳

大坂^一西^一陣^一一^一重^一勝^一と^一同^一軍^一役

と^一ら^一む

寛永^一六^一年^一重^一勝^一死^一し^一て^一母^一父^一女

地^一と^一領^一す^一ま^一に^一騎^一る^一回^一心^一足^一將^一の

一^一任^一付^一ら^一れ

寛永^一十四^一年^一八月^一廿^一日^一死^一す

中^一一^一三^一十九

法名 仁哲

改膳

源六 生國同好

寛永九年

八月 湯

同十年 湯

同十年 湯

之千餘石乃地と領すけ内五百石

領命とらふ事

也と領す

重行

源六 生國同好

寛永九年

八月 湯

同十年 湯

同十年 湯

約命やくめいとうきんとうきんしんましんまりりりりくくぬぬるるなりなり
飲す

正友せいゆう

内記ないき

寛永十六年九月十日

將軍家しやうぐんけ一一錫しやく一一ききくくままひひりり

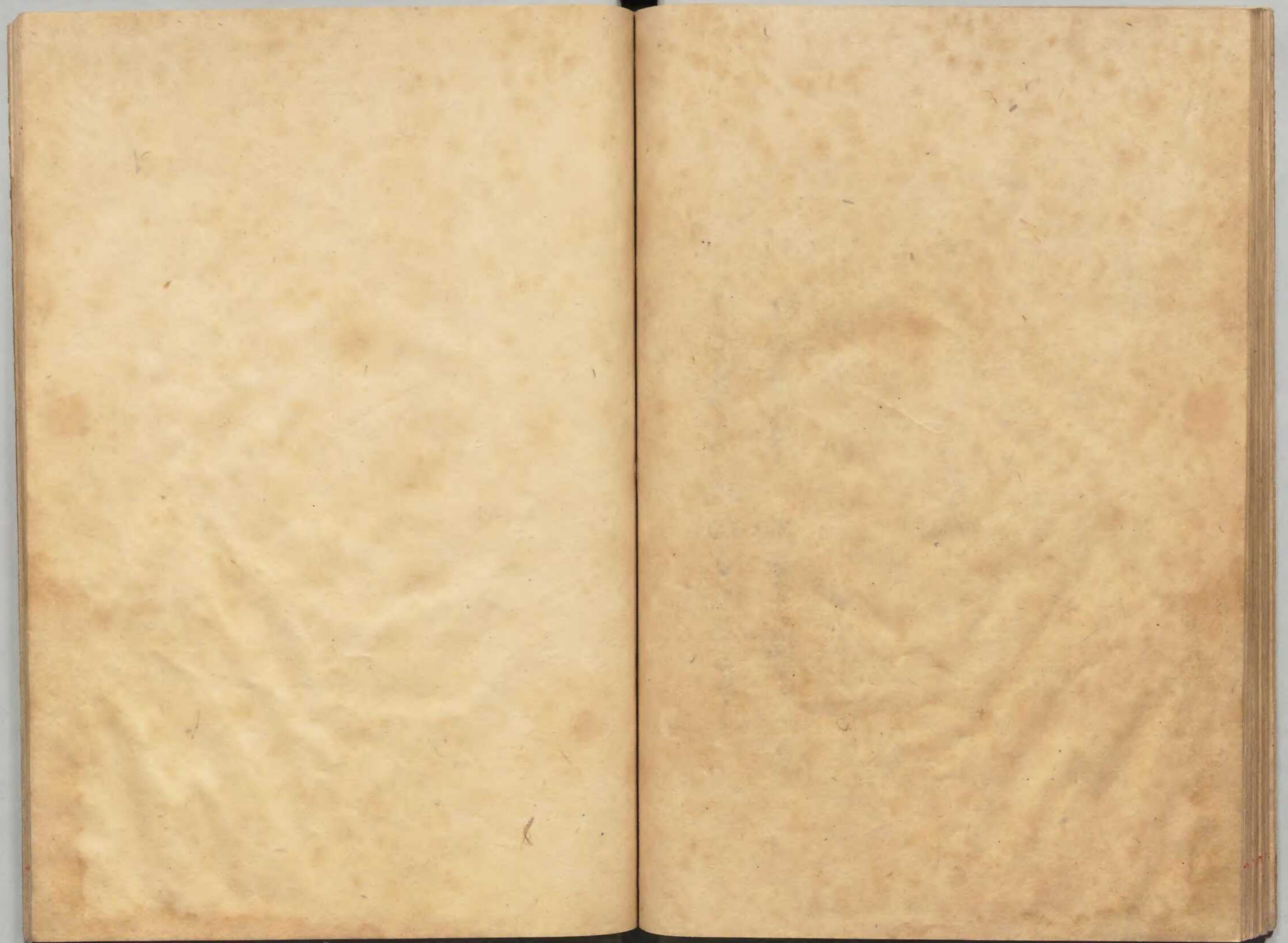
伊奥いお小姓せうじやうととりりとときき一一ししりり一一ししりり

ききくくままひひりり

同十七年どうじちしちねん伊奥いお持もちりりととりり

同十八年どうじちはちねん伊奥いお切米きりまいととりりととりり

家乃けの級きゆう九く内ない局りゆう令れい



文道姓

文道即物部守屋の孫なり年代

元一と云ふ人、世系断絶も家傳も

況し、
氏の一しりも記す

蜷川

式宗

大田左衛門尉

親直 ちう ちゆう

蜷川七郎と号す 法名 親直 なまがわ しちろう とごうす ほうなま ちゆうちゆう

親綱 ちゆう ちゆう

五郎 法名 信性 ごろう ほうなま ちゆうしやう

親信 ちゆう ちゆう

弥二郎 法名 志行 やま じちろう ほうなま しやうかう

親政 ちゆう ちゆう

進士 しんし

系親 けい ちゆう

と二郎 と じちろう

親心 ちゆう ちゆう

大志の尉 おほし の じゆう

親行 ちゆう ちゆう

主斗の しゆたう の

親物ちかもの

于氏たうぢい一い法はふ名な源げん光こう

帯刀おびたう

于氏たうぢい一いつつよよ法はふ名な祖そ妙めう

親俊ちかひら

帯刀おびたう

法はふ名な玄げん般ぱん

貞繁さだしげ

丹波守たんぱのしゅ

法はふ名な光こう統とう

親尚ちかたか

大進おほしんのの少すく尉ゑいよりよりはは新あらた大おほ進しんとと号なづす
義ぎ教きやう一いしし人ひと政せい所しよのの公こう俊しんとと号なづす
京みやこ初はつのの少すく佐さ人ひととと号なづす

永享元年えいかうげんねん十二月じふにがつ大進おほしんのの少すく尉ゑいよりより伊い

親也

新右衛門 生田武茂

義輝

丹波國乃内 相野河内 蟠根吉累年

乃 御馳 去りて 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

御事 大九年 一りの ちて 下

大 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

寺長 立 乃 開 系 涉 陣 の ち 長 宗 我 孫

文内 乃 補 嗣 王 ち 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

大坂 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

大権 現 升 伴 長 幼 乃 補 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

石見 乃 ち 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

團人 蟠 起 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り 一り

吾漢より陣より凶賊印とされ
と親油より親長とよび親油長宗
我部が家老と同議しころ久摺立
十餘騎といふのくびみまをい
賊敷ぬら捕はぬら城をとり
頭敷親大坂より敵と長宗我部が
家老ももて退散せらるる忍忍
城をうけとりと大坂より歸ら
親長のら大坂よりいころころ

大権現乃的命とく物とくお湯
くそまろくと親油五百とく
同十五年四月より死を法名道標

親油

次郎右衛門 生必同あ
長五郎と州入凶賊蜂起のころ
おれくうら捕
同十九年より

大権現おんかみ一ひと人ひとききくくももひひりり大坂おさか

ああ度ど湯ゆ陣ぢんよよ信のぶちち一ひと乃のち

台たい漣れん院いん殿でんととよよひ

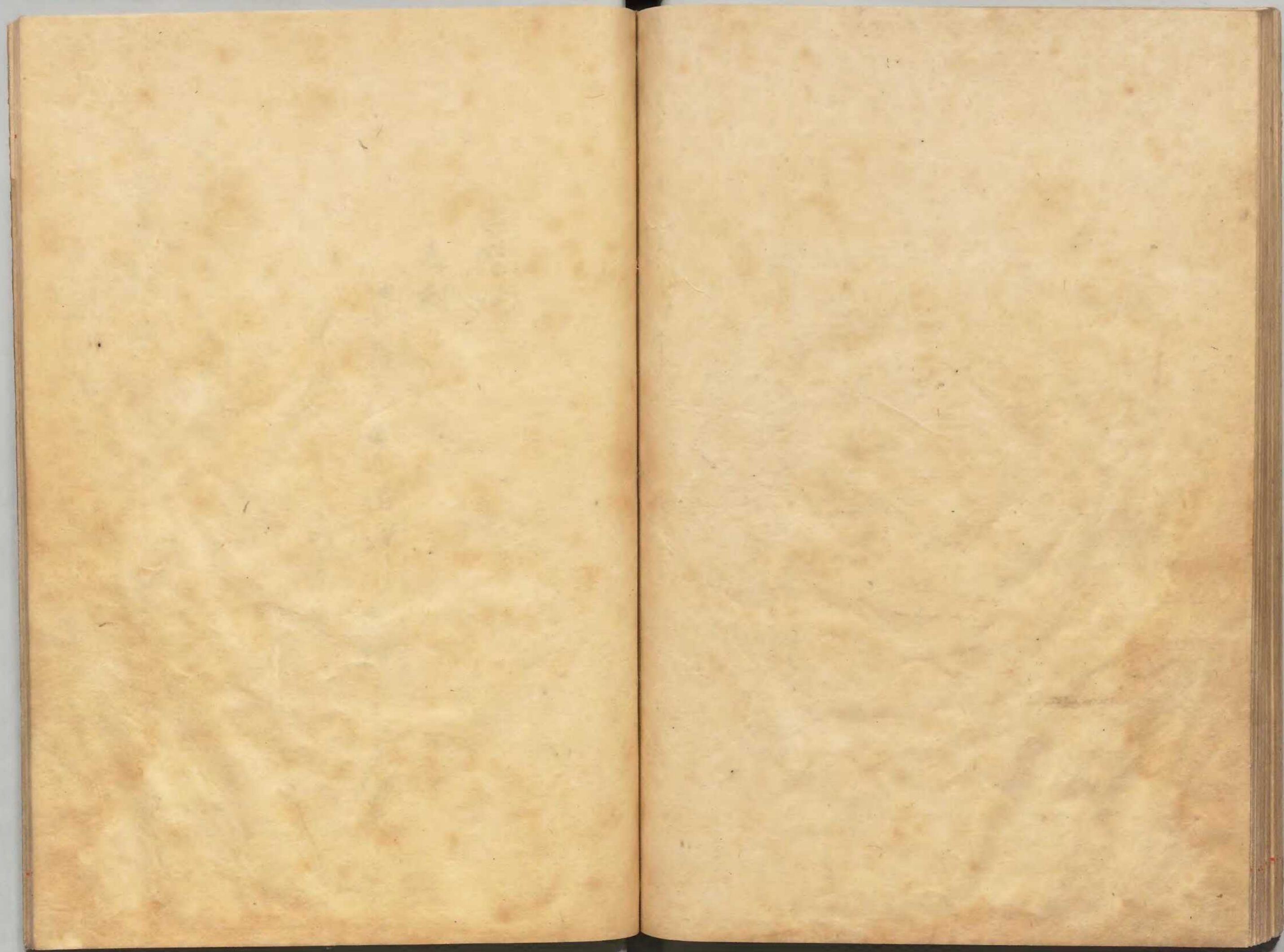
将しょう軍ぐん家け一ひと人ひとききくくももひひりり

親ちか房ふさ

表おもて乃の尉ゑい生なま玉たま同どうあ

乃の軍ぐん家け一ひと人ひとききくくももひひりり

家け乃の級けい乃のちちららにに二ふた行りょう



高階姓

志村

資廣乃先祖
江州志村
一ノ屋

一ノ屋
氏

天智天皇
御宇
御子

● 高市親王

大政大臣

長尾王 ながおのりんのきみ

大内 おほうち

素田王 すけだのきみ

後五位下 ごごいげ

磁部王 まぶのきみ

後五位上 ごごいじやう 大監物 たいけんぶつ 之河守 このりもり

石見王 いみのきみ

後五位上 ごごいじやう

崇徳 たかあき

後四位上 ごごいじやう 丹波守 たんぱのりもり 神祇伯 かみかみ 大藏大輔 おほのくらのおほのすけ
山城守 やましろのりもり 右中弁 みぎなかつま

承和十一年 じやうわじゅういちねん 高階美人 たかかへにん 姓を改す なをあらたむ

氏絶

後五位下

仲為

伯前但馬権守後四位上右中將

高階系圖子孫繁あるなり世系教十代

志村氏いづれの人より継ととま

とらふゆへこれと略守教十代

断絶と

資廣

伊賀守生國近江

佐々木系頼麾下一属一系頼

没落及後浪人等系

資則

筑後守生國同前

資良

かき集耐 生必同あ

資良しげりしとしりし中村なかつむら式部しきぶ少輔のせうぶ一氏いちし

とと兄あに弟に乃なりししここあありりるるががゆゆりり

式部しきぶ少輔のせうぶししりり居ゐりりてて後府ごふりり

河かりり石田いしだ之の成なり叛はん逆ぎやく乃なりとと記し大おほ教のう

新あらた八やち郎らう小こ倉くら忠ただ大おほ弟に乃なりとと記し資良しげ

大おほ権ごん現げんししりりとと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ

依よりりてて乃なりとと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ

とと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ

ひひ大おほ垣のきのの城しろ乃なり虚うつ実しとと記し資良しげ

ここももとと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ

事こと教しやう列れつ乃なりとと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ

軍ぐん功こうああるる旨しよとと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ

一いち統とうののちち湯ゆ家け人にんとと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ

とと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ

孝たか長なが之の年とし後ご府ふりりとと記し資良しげ乃なりとと記し資良しげ

四十二歳 法名牧雲

資忠

加普赤尉 生玉駿河

父資良死すとのち此職とす海

しるす

大権現より侍人きりまらる

大坂西陣に侍をす

元和三年

右通院殿よりお湯よりきりまらる

同九年

將軍家よりきりまらる

寛永元年三十二歳より死す

法名宗仲

資長

加普赤尉 生玉武藏

父乃あしきりまらる

寛永二年七歳少く

乃軍家よの御湯みゆ一いききくくままりり系けい

同十二年より御小姓こしやう池いの書がより

中ちゆう心しん

家乃紋揚羽蝶けいのゑのぼり

弓削姓

姓 尸 梁 一 い 一 石 上 也 同 祖
神 饒 速 日 命 五 世 乃 孫 磐 久 雄 命
の 後 有 之

家 傳 一 い 一 孝 通 湯 宇 弓 削
氏 の 族 河 内 也 一 居 一 一
繁 衍 也 一 乃 ち 氏 族 零 落

一 居 不 一 一 河 内 也 一 一

子之人と生長男を平岩
居一男を長坂一居
之男を於流一居と
ろ乃地と似ず子孫ろの地と
りつと氏やすこれと氏乃
ろ削ろともふとろの

平岩

正廣

五右衛門 生必之河

しーめと

大権現一は人きくまひ

乃ち約命一しーろくく地と

婦子正苗一拵つら平岩自斗

親音一居一庵剛義並つ

つよ

享長十七年五月尾州おしにて病死いひ中ちゆう一いち七十しちじゅうと法名道雲だううん

正苗せいめう

令在妻まことの 生必同なまあ

父正廣せいこうの 家督けあくとつつ

大指おほさし現げんとよよび

旨徳院殿しめとくゐん一いち法ほふ人にんとよよそそとといいり

小牧こまき小田原こゝろ開原ひらきとと取とりり津陣つじんとと

休在しゆざい

元和元年正月休しゆ見み乃城のしろ要よとつつとと

ここ乃のとととと五十一歳ごじゅういちさい中ちゆう病死いひ

法名ほふな道雲だううん

正次せいじ

令在妻まことの 生必相なま搦な

父乃ちち忠ちゆう次じとつつとと

旨徳院殿しめとくゐんとよよび

正俊

將軍家一子一人者さくま川系

寛永九年六月江戸よきひく病死

四十一歳 法名善貫

中河郎 生玉山城

寛永四年

將軍家一子一人者さくま川系

正信

合身者 生玉武藏

寛永九年九月十歳少く

〜

將軍家一子一人者さくま川系

父乃善治と好録す

同十六年より湯小姓担の事を

つとむ

家乃級もどめは丸乃らら
張はりのちま正まさ苗なほが世よりりい
丸乃肉にくりり結むす局りゆう金かねよ何なにも



